WAson
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年九月廿四日刊行

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府内無郵送税

第七十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 77. SEPTEMBER 24TH, 1887.

第七十七號

EDITORIAL:— On the Girl's School: No. II

LEADING ARTICLES:—History of the Woman's Right, by Prof. N. Hozumi; Daties of a Woman, by Rev. Y. Hiraiwa.

MISCELLANIES:—Japanese Literature: No. VII. (The Rules of Grammar), by Mr. H. Suzuki; Care of the sickness.

BIOGRAPHIES:—The Eminent Women.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社說 女學校の論（第二）

●論說 婦女權理の沿革第一（穗積陳重君述）○婦人の職業第二（平岩愃保君述）

●叢話 和文學講義（鈴木弘恭君述）○看病の心得

●佳傳 女丈夫の傳

●寄書 文のかき方（大橋景足）○倫敦タイムス新聞の女服論（高根虎松譯）

●新報 十六件

●特別廣告 婦人矯風會録事

●廣告

●珊瑚の珠 （第三十六回）

○ジョン、スチウアート、ミル曰く女子は男子に比較するに譬へば佛人の英人に於ける如く亦た愛蘭土人の瑞西人に於ける如く或は亦た希臘人伊太利人の日耳曼人に於けるが如く一事を爲すに雙方相異るところあつて而して互に優さる所あるべし

○ニミルを著したるローソウ曰く子供をして若し在の儘に生育せしめば必ずや其母を以て己の創り主の如く思なるべし

○ピーボデー孃曰く婦人はもし其の宗教上及び道德上の感覺を能く養成せば如何なる人にても大抵皆な幼稚園の保姆たるべき資格を有するものあり

○ジョン、ニコル曰く有名の文人學士の四分の三は大抵大學出身の人なり而して女子に大學の入校を許したるは近世の事にあらずや然るを女子中未だ非常の文人學士なしと云ひ以て女子の天質を輕んぜんとするは抑も何事ぞや

○貴人の妻を北の方とも云ふ北の政所とも云ふ男は陽女は陰南は陽北は陰なるゆへ也女は奥に引こもり諸事を取計ふゆへにやさる故に之を北の方又は北の政所と云ふ（貞丈雜記）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十七號　明治二十年九月廿四日

●社説

○女學校の論

（第二）女學校の善惡を辨別すべき事

偖て現今日本全國に存在する女學校の數は前に云へるが如く莫大なるものとせんに此中には其教育法甚だ宜しきを得てわつばれ歐米普通の女學校に劣らざるものもあるべく或は亦た其の敎へ方殆んど女大學の古風を去らず明治今日の時勢には反つて無効有害の趣あるものもあるべし其品千百啻ならざるが故に茲に細かに之を區別せんと固より爲しがたきの事と云ふべし。然れども世上すでに斯の如く數多の學校あらんには彼の之に就て學文せんとする女生徒方はその孰れか眞に宜しきを得て其の孰れか眞に法を誤まれるものなるやを辨知し成べく日進の開化に應じて眞正の女學を敎ゆるの場所に入學せんと望まるゝと勿論の義なり然れば吾人記者たるものは右數多の女學校を一々に撿査し其景況の善惡を評して諸子が方向を定むるの便に供するの務めあり吾人此義を感ずると一日にあらず方今斯く日々に新たなる女學校勃興するの折に際しては此の必要も亦た隨つて其度を增すものと心得たり。然るに各女學校の景況は之を取調ぶると容易ならず若し夫れ洋人何名女敎師若干名贊成員議員誰々と云へる名目を以て直ちに其校の善惡を卜し得べしとならば吾人は速刻にも之を答ふべし若し又英書を讀むと小學讀本を暗らんずるが如く英語を談すと日本語を談ずるが如きを以て直ちに其校の良否を卜し得べしとならば吾人は亦た問に應じて之を答ふべし然るに女學校の善惡は決して此の如き淡白至極の標準を以て辨知すべきにあらざるのみか好し假令ひ世に謂ふ所の完全の智育あるものを施すの學校ありとも其の校生徒の行儀品格下婢下女の如くあらば之は吾黨の見て宜しきを得たる女學校とは申すまじく又よし智育德育兩つながら其法を得たるものと雖ども躰育の一邊甚だ欠けて生徒の身躰追々に衰弱する如き場所は世の父兄が安んじて其愛孃を托すべき學校にはあらざるべし、然るに女學校の良否は亦啻に此樣の試驗科目を以てだも直ちに辨知すべからざるものあり即ち某學校の景况方今何如に微々たりとも其進步の方向甚だ感服すべきものあらんには久しからずして直ちに完全の地に達すべし今より子弟を入學せしむるに差支なきものと云ふべし然るに之に反し現に今ま世

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上の大喝采を博し恰かも虎に騎りたるかの勢ほひを以て進歩する所の學校あらんとも若し密かに其内面を窺ひ見て面白からざるの模樣あらバ之は安んじて子弟を托すべきの場所にあらずと知るべし、凡そ學校の景況を撿し其の實際の模樣を探り以て眞正の價値を定めんとには斯の如く數多の覺悟を要するが故に吾人は今に至るまで公けに各女學校を批評したるとなし之れ既でに之を批評して其善惡を比較せんと欲せバ勢ほひ一つを褒め一つを貶さゞるべからず若し誤まつて之を褒めんには世の子弟を殺ふの罪固より淺からず若又誤まつて之を貶さんには第一當路者の爲に申し分けなきのみか之に就て學ぶ所の子弟を誤まるとも亦た甚だ多きものあるが爲めなり讀者若し吾人が微衷を察する所あらバ幸甚なり。

然りと雖も若し各女學校の個々に就きて之を批評せんとあらば之が爲に吾人が遭遇する所の困難は如此く多しと雖も其の大躰に就て之を論ずるに於ては玆に斷じて公言し得べき所の事尠しとなさず吾人乞ふ先づ之より筆を起すべし。

思ふに當今女學校の數幾干あらんとも之を大躰より區別し去らば即ハち左の三種と爲さゞるべからず。

第一　普通教育の女學校、なり

第二　高等教育の女學校、なり

第三　專門教育の女學校、なり

第一普通教育の女學校とは一般の女子に有觸れたる教育を施し別段差したる專門の藝術を敎へず亦た是と云ふ程の高尚なる學文を授けざるものと雖ども凡ろ女子一生に必要なる總ての學藝は悉く其大躰を敎授し其何如なるものに就ても多少は必らず其心得なきとあらざらしむるものなり。第二高等教育の女學校とは普通教育を卒りたるものに更に高等の學藝を授け其の子弟をして啻に一身を硏かしむるのみならず其上一層の藝能を得て之を人に施さしむるものなり此類は今ま現に我國に存すると甚だ少し京濱の間だに於ては今度櫻井女學校に於て新に設けたる高等科及び橫濱二百十二番女學校に於て兼てより卒業生徒の爲に特に設け置かるゝ學科の如きもの即ハち之れなり。第三專門教育の女學校とは普通高等の兩教育を半々宛含み居るが如きものにして子弟に預かじめ是と云ふ目的を定めしめ之に應じて專門の教育を施こすもの也師範學校を初めとして職業女學校裁縫女學校の類即ハち之れなるべく且何事か特別の目的を以て敎育する所の女學校は均しく此類に入らざるべからず」以上三種の女學校に就き、見て以て其の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

善惡を辨知するの尤も難きは即はち普通教育の女學校とす蓋し其他二種の女學校に至ては例へば教師と相成らん爲め若くは裁縫師と爲らん爲め或は畫家音樂家と相成らん爲に業を受くるものと云へば此類の教育にては不足なり之にて初めて十分なるべしとの鑑定を立つること決して難かるまじ然れども彼の第一種普通教育の女學校に至ては凡そ一般大躰の女學とは抑も如何なるものか女子は抑も如何ほどの教育を何年間に受け得たらば即ち其普通一と通りの教育を得たるものと云ふべきか此等の義甚だ漠然として定まらざるが故に扨ては何處の學校か尤もよく此の目的に相應するや甚はだ辨知しがたきものあり思ふに世人が先づ第一に承知せんと欲するところの者は即はち之れなるべく吾人が最初に論辯すべきものゝ中にも又た之を以て尤も必要なるものとすべし。

熟つら思ふに普通教育の女學校とは即はち女子一身の性情を悉く發育し兼ねて今後當にその發達すべき方向を定め以て其一生の進路を誤まらしめざることを主旨とするもの也、然るに女子の發育を見るに其の生れ出でゝより十二三才に至る迄は生ゝの模樣殆んど男子と異なる所あらざるが故に小學校内に於て男女を合はせ教ゆるは固より當然の事なり而して彼の十二三才より以降所云る娘孃となり二十才前后既に妻となり后ち暫らくして即はち人の母となるもの也故に彼の普通教育なるものは即ち十二三才を始めとして遲くも二十才に至る迄の女子を教育することを目的とし且つ向來その妻と爲り母となるべきことを前知して以て授業の科目を備へざるべからず此故に普通教育の女學校は年限大抵五年以上七八年なるべく其教ゆる所の科目には和漢數學を初めとして文學理學の惣躰を殘さず中には文學に於ては脩辭文章詩歌及び經濟學等を主とし理學に於ては生理理化等の諸學科を第一とすべし伺ほ音樂畫學女禮の如く凡そ美術の志想を發育するもの及び裁縫編物の如く一は女工と爲り一は女德を養ふの方便となるもの並びに家政家内衞生及び育兒看病の如く凡そ妻母の必らず承知すべき事柄を備へざるべからず而して方今日進の時世に於て凡ての智識を尤も容易に收め得べく且つ人の智力德性を發育するに尤も助けあるものは即はち歐米西國の文書言語なるべきが故に英佛もしくは獨逸等の國語を一と通り談話もし又た其國文を大抵讀み得もすべき程の學力を有つこと緊要なるべし左れば普通女學校内の外國學は專ぱら此の一義を主旨として教授せざるべからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

扨て右に述ぶる所の理論は甚だ淡純明白にして態々之を論辨すべき必要もあらざるかの如く思はるべし然るに世上に數多ある普通教育の女學校に於て現に此規則を破り不順序不相應の科目を立つるもの甚だ多きに至ては實に喫驚せざるを得ず例へば英語英學を專ばらとし毎日半日は殆んど之に費やし乍ら和漢學は頓と之を構はず筆算簿記等の學をも只だ附たりの如く見做し或ひは彼の文學の一科を甚だ鄭重にして理學の門を悉く畧し洋琴を教ゆると信切なれども畫學裁縫に至ては餘り之を重んぜざるが如きものあり若し專門教育の女學校にして何事か特別の目的を以て其の生徒を教育するとならば之にて差支へあらざるべし然れども苟くも普通一般の教育を施し女子一身の性情を悉く發育し其の一生の方向を定めしめんとには斯る不信切の教育は實に人の子を片環にするものと云はざるべからず凡そ人の幼なるや猶ほ若き植木の如し主人にして若し特別に曲り屈ねりたる庭木を作らんとならば即はち何如やうともすべし苟くも其の生立を眞直にし其の枝風を行儀よくし何處も皆な健剛なる丈夫の樹木と爲さんと欲せば其左右前后に同一の光を照らし上下一樣に雨露の惠を當て四方むらなく肥料物を施すよう取計らはざるべからず然るに十二三以上二十才以下の女生は其の可愛にして軟弱なると眞とに若き植木の如くなるに之に英學と云へる日光を只だその右一方の枝に當て他の三方を殆んど暗黒の如くならしむる時は此木や其勢力を此一方に集めて特更に右の一偏に枝を延ばし恰かも猿猴手を出して月を捉ふるが如き奇觀をも爲すべし一種の文人には甚だ愛せらるゝものと雖ども斯る女子一生の發達は甚だ氣の毒に堪へざる者あるなり此外和漢學女禮に精神を凝らしめて其餘を顧みるを許さゞるもの若くは智育一邊に腦力を盡させて道德の事を重んぜざるもの及び女生徒に有勝なる競爭心の歡びを迎へてたゞ〳〵日課を多くし進歩を速やかにし一二年にして他の女學校四五年の課業を卒へしむるものゝ如き何れも此れ信切なる植木師の爲すべきものにあらざる也。

故に女子の一生を譬へて此世の旅路を行くものと做さんか普通教育の女學校に於て教ゆる所の事は即はち之に旅行の心得方を示し且つ其の步行の足力を固むるものなり敢て之を導いて一日十里百里の道を經過せしむる者にあらざる也、茲に鐵道滊車あり今日瞬間にして人を載せ數百里を走る其人甚だ遠きに到りたるを誇るべしと雖ども而も其身元來未だ旅行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の心得を覺へず亦た其足未だ自から一里を歩むに足らざる歟左らば今日滊車に乘じて數百里を行くの人は明日以降日に僅かに一里二里の道を旅びするに堪へず而も艱苦困難啻ならざるの思あるべし彼の女學校内に於て其性情を發育せず其一生の方向を定めずたゞ英學文學を頭腦に詰込み朋友を後に見て一日數百里を走り以て自から快しとする所の生徒は卒業を以て既に事の畢りとなし學校を出るの後ち俄然として墮落するの人あり之を眞正の敎育を受得たる女生徒と云ふべからざる也思ふに此人もし急激の進歩を望まず緩々と學び徐々と發達し能く獨立獨行の力を得て日に十里十五里の路を歩むべき足力を固め得たらば學校内に於ての進歩は甚だ遲く且つ後れたるが如しと雖もかの滊車を出るの后ち茫然として爲す所を知らざるが如きものにあらざるべし故に思ふに普通敎育の女學校あるものは須からく學藝の進歩を徐々として女生徒の性情を悉く發育するを主旨とし只だ之に智識を與ふるを望みとするが如きとなきを要すべき也、世の女生徒たるもの若し此の一大要義の備はると否とに由て以て女學校を撰まば其の普通敎育を受るに於て蓋し損する所あらざるべし。

"They are the books, the Arts, the Academies,
That show, contain, and nourish all the world."

Shakespeare.

● 論説

○婦女權利の沿革（特別寄書）

穗積陳重　講述

左は穗積君が法學協會に於て講述あり伊藤新太郎氏が筆記されたるを特別寄書として惠贈ありたるもの也

私が今夜提出致しました演題は婦女法律上の權利と申しまするとで凡そ何れの國でありませうとも昔しより今に至るまで婦女法律上の權利は如何なる變遷を經たる者なるやと云ふ問題でありります、未だ夜も更ませぬが、餘り長談議を致し、折角の講釋が變じて眠の媒介となりましては誠に不本意でありますから、成べく簡單に大躰の御話を致さうと思まする。

扨私が右の演題を撰びましたには二つほど理由が有ます、○其一は社會上の理由とでも申すべきか、近來我邦の社會の有樣は餘程變化を來しました中にも殊に著しきものは婦人の變化であると思ひまする、例へば市街を通つて見ても直に眼に着くものは婦人の頭髮で、其名は委しく知りませぬが是まであり來りの島田とか丸髷とか申す種々樣々の形ちは漸く變じて今日は束髮になつて居ります、然し乍ら婦人の有樣に變化を現はしたるは特り頭髮衣服等の外形ばかりでなく、男女交際の摸樣、婦女敎育の仕方等に至るまで、實に著しき變動

が生じて居りませう、果して婦人社會に此の如き激變を來しましたならば「法律は社會の變遷に伴ふ」の常で婦人に關する法律上にも必ず多少の變動を觀るであろうと思ひまする、又此頃は頻に社會の改良を論ずる人がありますが、社會の改良の大本はどう致しても婦人より起らなければなりませぬ、一躰人間を生付けるは勿論、子供を敎育するにも、養育するにも、初めは皆婦人の役目で有りますから、即ち現今の婦人は將來の國民の母でありまする、故に婦人の法律上の權利ハ如何なる方角に向ひて進む者なるかと云ふことを研究するハ必要の事と考へます、第二ハ法律上の理由で有りまする、何故法律上から婦人の權利を論ずるが必要であるかと云ふと、諸君も御存の通り、目下日本では專ら民法編纂中で有りまして、此民法の編纂が卒りますれば、先づ第一に人事篇で婦女の身分の事定まり、又財産編にてハ財產權、契約權、相續權其他民法上の婦女の權利ハ悉く定まるであろふと思ひます、夫れで、法律は立法者が拵へてくれるから我々は知らいでも宜しいとすまして居れば兎も角、苟も我々ハ自分權利の限度を辨へて居なければならぬとならば、民法で婦人の權利が定まる前に豫じめ婦人私法上の權利はどう云ふものであるかを研究するもマンザラ無益でもあるまいと心得ます、又獨り私法上のみならず公法上に於ても憲法が定まれば、公法上婦人の權利は如何に成り行くべきや、此事も二三年の後には必らず定まらふと信じますが、其前に研究致し置き度き事と存じます、扨私も婦女法律上權利の議論に付きましては聊か自家の説が無いでも有りませぬが、私の説は先づ姑く措き、全く私見を交へずして偏へに沿革法理學上と比較法理學上との二點より古今各國の法制に徵し婦人に關する法律の進化の方向を指示すのが今夜の講釋の目的であります。

私が第一に御話し申まするは婦人の身分及び生命權に關する法律の事でありまする原始社會にて法律が未だ充分に定まらぬ時代には權利は力に伴ふもので權利即ち權力で有りまして、人間の生命でも、自由でも、財産でも、悉く腕力を以て保護して居ます此如く自己の腕力で自己の權利を保護するを法律ハ只之を認て居るに止まる位の有樣で有ります、社會が稍進むに隨ひ自己の代りに裁判所が保護をして呉る樣に成行きます。扨此の如く權力即ち權利なりと云ふ主義の行ハるゝ未開社會に於きましては、權利は筋骨逞ましき荒くれ男の專有物にて、優しくして力の無い婦人達ハ權利の無つたとは明らかであり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ます、獨り權利があるのみならず、法理學上の眼より見ると婦人は未だ人間の資格を得ませぬ、諸君も御存じの通り「人は權利の主躰なり」と申し、法律上で人と稱する者は必す權利を持て居る者に限り權利なき者は人とは稱へませぬ、例へバ彼の奴隷の如きも物理上より見れは自然の人に相違はありませぬが、少しも權利を持ちませぬから法理上より見れば人でハなく即ち一個の物件でありました、婦人も矢張り是と同じ事で、野蠻の社會では少しも權利を許しませぬから、法律上よりハ人とハ云はれませぬ、故に此時代にハ婦女ハ法律上の物件にして人間にあらず、丸で牛馬犬羊或ハ弓矢銃鎗と同じ物で、云はゞ男子の所有物又ハ玩弄物で有りました、何と哀れある有樣でハありませぬか、男は山野に獵をし、或は河海に漁りを爲す時ハ其獲物などを家に運ぶは皆妻たる者の役目だと云ふことが社會學の書に出て居ります、男は戰爭の時に働くとか或は漁獵に骨を折るとか致しまして、運輸の事業とか薪炊の事業とかハ悉く之を婦女に任せ、若し偶ま男が重ひ物を擔いだり又ハ米を搗いたり、釜の下を焚付ると、アノ野呂馬を見ろアノ鼻下長を見ろと云て罵り笑ふハ、野蠻人民の常習じやと申します、此の如き次第でありますから原始社會に於て婦女ハ一個の權利だも有せず、全く奴隷に等しく、又牛羊家具に異ならず、法律上の權利の目的物となれ共自ら權利主格即ち持主となる能ハず、故に婦女未だ人格を得すと申します。

原始社會に於て婦女法律上の位地ハ概ね右に陳べた樣な者であります、次に現今歐羅巴諸國の法律の基礎と成りたる羅馬法にて婦女の位地を御話し申しませう、羅馬法にてハ婦女ハ家長たるを得ず家長ハ家族たる婦女の上に生殺の權を有して居りました、生殺の權が他人の手に在る位でハ自身に權利の無きハ知れた事で即ち羅馬古代法にても婦女を人と見做さゞりし證據であります又十二銅標の法にも女ハ「レス、マンシピオ」なりと申してあります、此「レス、マンシピオ」とハ財產の一種にて「マンシパシオ」と云へる儀式を用ひて讓與すべき物件を指したもので、近世にて云ハゞ不動產と申す樣な者であります、故に其家長たる者ハ之を他人に賣りて其妻と爲し、或は之を他人に讓與して奴隷となすことが出來ました、又婚姻にも「コエンプシオ」と云ふ賣婚式あり「ユーサズ」と云ふ時効結婚式あり、即ち代價を拂ひ又は時効により妻を得たる者にて、法律上より之を見れば婦人ハ賣買品にて、此コップや机に少しも違ひハありませなんだ、故に羅馬古代の法律にても

婦人は物件なりしは明らかです、又生命の權利とても少しも無つたことであります、然るに羅馬でもアレキサンダー、シベラス帝の時に至り、初めて法令を發して懲戒の目的に非されば婦人を鞭撻するを得ずと令しました、またデオクレシヤン帝及マキシミリヤン帝の時に至り女子を奴隷に賣るを禁じ次で紀元三百十八年にコンスタンチーン帝は夫が妻を殺し家長が子を殺したときは殺人罪を以て論ずと云ふ法令を出しました、此時までは妻を殺すは牛羊を屠ると少しも異なる所はありませなんだが、妻子を殺す者は殺人罪を以て論ずと云ふ法令が發布になつてより羅馬の婦女は初めて生命の權利を得たるもので有ります、併し生命の權利を得たる後も女の命は男の命に比べて見ると法律上の價が餘程低くかつたものです是は何れの國の法律にも其例の有ることで、英吉利の古法などども妻が夫を殺せば小叛逆とて殊の外重き罪に該りましたが夫が妻を殺したのは叛逆でも何でも無く只通常の殺人罪で有りました。（未完）

○婦人の職掌（其二）

平岩愃保述

第三に文部大臣の責任ありと云ふは則ち小兒敎育です今此家庭の敎育を三段に分て私の説を述ます第一には身躰の敎育です就中衣服抔は小供が何も着たいとも謂はぬに立派なる絹の着物抔を拵へて歡ぶ親があるが此等は注意すべき事であります衛生上より申せば絹は冷す性質を有して居りますから小供には適して居りません之に換るにフランネルの樣な者を用ゐ升るは躰育の一番手始めです乳を飲まするにも小供が泣けば直に乳と病の有無抔には構はず乳を與ふるは小供には却て害を來します故に能く時を定めて與ふべきだが一寸考れば容易ある事の樣ですが實際なか〳〵難ひです此邊に注意するは母たるの責任です俗に小供を寢せまする時分に布を以て顔より頭迄を覆ふが能くありません自分で吐出せし惡しき空氣を吸ふことになります又寢かす事を充分にせずして眠を少なくするは能くない着物を着せるにも胸を現はすは能くない後來肺疾を患ふるに至ります又足を冷やしますも後來神經病を起すの基となります。

次には智育ですが小供程智識の開發を促す者はありません何を見ても其次ぎ其つぎと問ふが普通で御座います夫れを五月蠅と責るも普通母親の習慣ですが此等ハ其本分を失つた者です何でも小供に解し得らるゝ迄己れの知り居るだけは話して聞せなければならん左すれば大層成長に從て敎育の助けにな

ります一寸した事ですが能く大人しくせよと小供に云ひます元來此ハ無理の辭と思ひます大人が小供になるとハ出きる小供が大人になるとハ實に難ひ無理です故に小供の心を母の心にしやうとハ思ず母の心を改めて小供の心となし敎育致すが大事だらうと存じます(喝采)箇樣にすれバ小供ハ頑是なきながらも母親を以て此上なき賴みとする樣になります。

次ハ德育です德育のうちにて何を一番先きにするかと云ふに我儘を挫ぐ事です家庭敎育七年間ハ我儘を挫ぐとのみに精神を籠めても宜しいと或學者が申されましたが學術の如きハ其後に敎へても充分間に合ふ事です其我儘を挫ぐの後ハ如何にと云ふに物を小供に與ふるにしても決して小供自身の權利を以て得べきにあらざるを示すのが肝要です動もすれバ親より物をひつたくる樣の事がありますが其樣の時ハ與へぬが宜しい己れの衣食するハ親の惠みと云ふことを深く肝に銘ぜしめなければならぬ成長の後親の恩を思はぬ如きハ畢竟幼稚の頃より此邊の敎へに注意せざる則ち母親の過ちです(喝采)

言語を愼ましむるも德育の一です小供ハ隨分不躰裁なる言葉を用ひますが世の親たる者ハ更に之を咎めません却て金錢を以て贖ひ得べき物品にても破碎する如きことあらバ大層に譴責しますらんぶとか障子とかを破りますれバ罪を得無禮不敬なる語を發するも罪を得ざると云ふハ親の不注意です(喝采)此等の時ハ器物を毀損したる時などよりハ尙一層譴責すべきであります親の不注意なるハ種々ありますが自ら詐りを敎ゆる如きハ最も正さなければなりません恐ろしき物がゐるから寢よとか靜かにせよと云ふ如きハ宜しくありません小供を欺くのです小供ハ頑是なき者ですが時として實に親を驚かしむることがあります其一例にお話しますが私が子を育つる頃に冷汗を流したことがありますそれハ每夜頻りに泣きますが之を止むる良法を覺へました夫ハ鼠が鳴けば泣止みます此秘術を發見しましたから泣くと隙の蔭にて鼠の鳴聲を擬せます何時も此手で泣止みますから至極良法と思ふて居ると或日小供自身に隙の蔭で戶を叩き鼠々と言ひました(ヒヤ〳〵)是より私ハ大に省る所ありて其樣の事を致すハ止めましたが兎に角小供をして親を信用さするとハ大事であります

以上ハ婦人の三大職掌に就て簡略に其實務を述べたのですが此三の者ハ大層に世上に關係を有して居ります此三者を妻が務とすれば一家の幸福ハ期して俟つべく一家の幸福を遂ぐれバ一國の幸福も亦期して俟つべきです人を感化する抔も獨り西洋の婦人ばかりではありません日本婦人も此感化の力は十

分かるのですが奈何せん今迄ハ婦人ハ卑しき地位に居りましたから其功を人に知らしむるとが出きなかりしのです是よりハ何卒あなた方が振て日本女流の舊風を一洗して其功世間に聞ゆる程の事をなされんとを希望します(喝采)英國に有名なるグラッドストン氏が今日の品格を具らたるは誰が爲か其人自ら曰く我れオーガステン氏の母の力を以て此に至りたりと蓋しオーガステン家庭の功勞ハ遂にグラッドストン氏を世に現ハしたのです又ウェスレーの母も同樣です孟子ハ七篇を著ハして東洋の人心を支配しましたが孟子七篇を著ハすにあらずして孟母の三遷能く之を著したのです(喝采)是に因て之を觀れば母は小供の母でハない開化の母です願ハくハ矯風會の諸君にして私の述る所に採るべきとが有りましたならば進で一身より一家より遂に其功を一國に及ぼされんとを企望して已みません(大喝采)

●叢話

○和文學講義　(特別寄書)　鈴木弘恭

第七回　詞辭用格の二

前回に於ていさゝか申殘したる事あれば今日ハ最初にその事を一言すべしさて上に四段用格一段用格中二段用格下二段用格といへる此の四段一段中二段下二段の名目ハ五十音によりて名つけしことまづ五十音の列ハあ列い列う列え列お列の五段なれども既にいへるが如くお列にハ運用すべき言なければ是を省きあいうえの四列(即ち四段)を以て運用の言と定たれば則此四列に運用する者を四段用格といひ單に一列(即ちい列)のみにて他列に運用せざるものを一段用格といひ上下の二列(即ちあ列え列)に運用せずして中の二列(即ちい列う列)に運用する者を中二段用格といひ下の二列(即ちう列え列)に運用する者を下二段用格といふ然てあかさたなはまやらわの十行に運用するは下二段用格のみにて一段中二段下二段の三用格ハ十行のうち各六行づゝに運用する例あるとは次々に云べしさて第一四段用格とハ五十音のうちかさたはまらの六行にのみありて他の四行にはなしあいうえの四列の音のうちに運用するものをいふ則ち加行ハかきくけ左行ハさしすせ太行ハたちつて波行ハはひふへ末行ハまみむめ良行ハらりるれと運用する是なりたとへば鳥が鳴く木が動く花の咲く風の吹く物に飽く火に燒く聲を聞く山を行く字を書くなどいふなくうごくさくふくあくやくきくゆくかくの類の詞ハ皆加行四段用格の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

詞なりしかれどもこれを一の音に移してなかうごかさかふかあかやかきかゆかかゝとのみ云ひては未だ十分の詞を爲ざる之故に四段用格の一の音に於ては假りに是に付屬する辭を添て見る例なり則ち一の音に付屬する辭とは四ありずむなむば是なりさて是をどのやうに添て見るとならば左の如し

鳴　なかず　なかむ　なかなむ　なかば
動　うごかず　うごかむ　うごかなむ　うごかば
咲　さかず　さかむ　さかなむ　さかば
吹　ふかず　ふかむ　ふかなむ　ふかば
飽　あかず　あかむ　あかなむ　あかば
燒　やかず　やかむ　やかなむ　やかば
聞　きかず　きかむ　きかなむ　きかば
行　ゆかず　ゆかむ　ゆかなむ　ゆかば
書　かゝず　かゝむ　かゝなむ　かゝば

といふやうに添てみるべし但し辭といふも動詞の事にて上に辭に四品ありといひしは第一指動詞第二結動詞第三助動詞第四嘆動詞の四つなれど下の辭の條に細しくいふべし此に揭たるずむなむばの四つもずむなむの三は結動詞なりばは助動詞なれどなほ下に細しく云ふべし。

偖この用格中詞の活動によりて作用詞は五種形狀詞は六種の區別あり此の區別あるが故に本邦の詞は短簡にして能く其意を明瞭に寫すことを得るなり因て作用詞は四段用格ならば加行はかきくけの四段なれども是を五階に區別してかきくけ左行はさしすせ太行はたちつて波行ははひふへ末行はまみむめ良行はらりるれとなし是を一の音二の音三の音四の音五の音となす此の五音を名付て將然言連用言終止言連體言已然言といふなり。

將然言とはまさにしからんとする言にて將來また輕き未來言となる之則ち一の音に運用たるなかうごかさかの類なれども上にいへるが如く辭を添てなかずなかむなかなむなかばといふの類なり左の俗解を見てその將然言なることを知るべし

加行四段用格將然言

鳴かず	俗ナカナイ	鳴かむ	俗ナカウ
鳴かなむ	俗ナイタガヨイ	鳴かば	俗ナカウナラ
動かず	俗ウゴカナイ	動かむ	俗ウゴカウ
動かなむ	俗ウゴイタガヨイ	動かば	俗ウゴカウナラ
咲かず	俗サカナイ	咲かむ	俗サカウ
咲かなむ	俗サイタガヨイ	咲かば	俗サカウナラ

吹かず	俗フカナイ	吹かむ	俗フカウ
吹かなむ	俗フイタガヨイ	吹かば	俗フカウナラ
飽かず	俗アカナイ	飽かむ	俗アカウ
飽かなむ	俗アイタガヨイ	飽かば	俗アカウナラ
焼かず	俗ヤカナイ	焼かむ	俗ヤカウ
焼かなむ	俗ヤイタガヨイ	焼かば	俗ヤカウナラ
聞かず	俗キカナイ	聞かむ	俗キカウ
聞かなむ	俗キイタガヨイ	聞かば	俗キカウナラ
行かば	俗ユカナイ	行かむ	俗ユカウ
行かなむ	俗ユイタガヨイ	行かば	俗ユカウナラ
書かず	俗カヽナイ	書かむ	俗カヽウ
書かなむ	俗カイタガヨイ	書かば	俗カヽウナラ

この外なほ多くあれど準らへてさとるべし

次に連用言といふは用言より用言へ接く言なり則ち二の音に運用たる鳴き動き咲き吹き飽き焼き聞き行き書きの類あれどもこの言ばかりにては用を為さず必ず他の一言を連接してその用を為すゆゑに連用言とはいふなりたとへば鳴き動き咲きとのみ云ひてハ鳴イタコトヤラ鳴カヌコトヤラ動イタコトヤラ動カヌコトヤラ咲イタコトヤラ咲カヌコトヤラ分明ならざるなり然るを是に一言を連接してなきそむといへば鳴キ始メタヿなきやむといへば鳴イテヤミタヿなきいづといへば鳴キ出シタヿなきいでずといへば鳴キ出サヌヿ動きそむといへば動キ始メタヿうごきやむといへば動イテヤミタヿうごきいづといへば動キ出シタヿうごきいでずといへば動キ出サヌヿさきそむといへば咲キ始メタヿさきちるといへば咲イテ散ルヿさきいづといへば咲キ出シタヿさきいでずといへば咲キ出サヌヿとなりて其意分明になるの類也しかして此の連接する言尤も廣し此の例を推て知るべしなほ云ハゞなきさきるハ鳴イテ切ルヿなきさわぐハ鳴イテ騷グヿうごきゆくハ動イテ行クヿうごきおつるハ動イテ落ルヿさきみだるハ咲イテ亂ル、ヿさきにほふハ咲イテ匂フヿの類の如し是を短簡に一言づゝいはゞなきやむうごきいづさきちるふきおこるあきたるやきつくすきゝよきゆきとゞくかきつくなどの類也此の連用言を明瞭に解すにハての字を加へて見る例あれバ左の俗解を味はひて覺知るべし

加行四段用格運用言

鳴き止む	俗ナイテヤム	動き出づ	俗ウゴイテデル
咲き散る	俗サイテチル	吹き起る	俗フイテオコル

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

飽き足る　俗アイテタル　　燒き盡す　俗ヤイテツクス
聞き能き　俗キイテヨイ　　行き屆く　俗ユイテトヾク
書き付く　俗カイテツク

この外なほ多くあれど準らへてさとるべし。

次に終止言といふは風の自づから吹きやみ雨の自づから降りやむが如く自然に止むの義にて此の言を用ゐれば詞のおのづから終止まるゆゑに終止言とはいふなり古人はこれを截斷言と名づけたれども截斷と云ひては自然のことに非ず物を截り斷つの意にてたとへば永き糸を幾箇にも截り斷つが如く一物を切れ〴〵に截斷するのこゝろあれば此所には如何あらんとて近頃ハ終止言と改めたるなり是れ實に允當なる名稱なり則ち三の音に運用たる鳴く動く咲く吹く飽く燒く聞く行く書くの類なり是は鳥が鳴く木が動く花の咲くなどいふときのなくうごくさくにて同じことのやうなれども鳴く鳥動く木咲く花などいふときのなくうごくさくの類は終止言に非ずこれは連體言なれば次の條にいふべし

さてとりがなくきがうごくはながさくといへバ鳥が鳴イタ木ガ動イタ花が咲イタといふことにて此の鳴イタ動イタ咲イタといふ言の下には連接すべき言のなきゆゑに自づから此言にて終り止む格なり故に終止言とハいふなり左の俗解を味はひて知るべし

加行四段用格終止言

鳴く　俗ナイタ　　動く　俗ウゴイタ
咲く　俗サイタ　　吹く　俗フイタ
飽く　俗アイタ　　燒く　俗ヤイタ
聞く　俗キイタ　　行く　俗ユイタ
書く　俗カイタ

此の外にも多くあれど準らへてさとるべし。

○看病の心得

一に看病二に藥と云へる諺あり看病のよしあしにて危篤の病も遂に直ほるとあり又た左程になき輕症も遂に手重となるとあるなり看病の大切なると知るべし然るに女方は尤も此に適す其の軟らかなる手を以て介抱するにあらずば男子は兎ても病人に附添ふとは得なるまじ女子は蓋し看病と云へる一つの大役目を天より命ぜられたるものと云ふべし。

看病の心得さま〴〵あり先づ第一に大切なるは能く醫師の言葉にしたがひ其の命じ置たる規則を嚴に守ることなり病人が何如ほど憫れある顔付をして飲食を求るとも醫師の許なきに之

を與ふるハ反つて其病人の躰を害するものにて其實決して彼れに信切なるものにあらず眞に病人を愛するものハ即ち病人の言葉に從ハざるものと心得べし。

但し醫師の命に從ふハ從ふべきの理ありて之に從ふことなればバ何如なるときも愚正直に其言を守りて宜しきものにあらず醫師が再び巡り來るまでに何か急かの變化ありて病症突然と變ハりたらバ醫師の來るまでに先づ之に手當すべき覺悟なかるべからず故に凡そ女ハ大抵の家内衞生方を學び看病術の一と通りを心得置くこと大切なり。

病人の寢床に强き日光入り來りて病人の面に直ちに當るようの事ありてハ相成らず西洋風の窓ならば厚き窓かけを吊るし障子ならバ薄き品を掛けて日光を程よくすべし。

壁の張紙又ハフスマのもようなど何か數多の線ようのものあるハ宜しからず神經的の病人ハ之を氣にして度々其の線の數を算ふることなどあらん面白からぬことなり。

病人の居る所にて騷がしき大聲を出すハ固より惡しゝ左らバとて最と小さき聲を出して話すものあらバ病人ハ甚だ掛念して疑の心を起すべし故に溫和なる低き女らしき聲にて物語るを必要とす。

病人は甚はだ待遠しがるものなり故に時間の事は餘程正しくせねば成らず凡そ尋常の人に對しても約束の時刻を違ふるは固より宜しからぬことなれども病人へは特に此を覺悟し決して遲刻すべからず。

看病人に大切なる氣質はなはだ多し先づ之を概すれば第一に從順なることなり第二に常も溫和なることなり第三にシッカりとすること但し之が爲に殘酷と云ふように爲りては宜しからず第四に悅ばし氣なること之は病人の欝し勝なるに對して尤も必要の事なり第五に思ひやりの事凡そ病人は身躰不自由にして大に難み居るものゆへ能く之を察し同情の心厚かるべし第六に自利の心なく何事にも只だ病人の爲めを思ふようの樣姿あるべし第七に克己とて能く己に克ち自ら守る毅然たるの風あるを要す第八に忍耐すなはち何事にも彼は病人にて無理をも言ひ心も屈し情も曲れるものなりと許して之を堪忍する心の厚きこと、以上みな〳〵大切なるが最后に更に一つ大切なるものあり即ち看病人の頓智之れなり凡そ看病する人が何事にも餘り有の儘なるは宜しからず能く病氣の心を察し其有樣を考へて事に臨み機嫌を引き直すようの取扱を爲さゞるべからず之には頓智と云ふもの尤も大切なり。(此餘は尙他日說明す)。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●佳傳

○女丈夫の傳

女丈夫とは女にして丈夫の如くなるを云へるなり、抑そも西國の諺に云へる女の男らしきは男の女らしきが如く宜しからずとハ果して眞なりや此事もし當を得たらバ女にして丈夫の如くなるは國家の吉事か將た不吉か甚はだ分明ならぬものなり。然れども世に生れ出づる男女の數すでに同じからずして寡婦、獨女の數反つて無妻の男子よりも多きを見れば世上の婦女必らずしも皆な家を脩め子を育つるの義務あるものにあらず、中には一生ミス某と名乘り獨立獨行して女權伸張女子敎育等の事に盡力するものもあるべく天が時に偉男子を下して革命大變の基を作る如く折には有髯男子を壓倒するほどの女丈夫を生じて婦人社會の大燈明と爲す妙工もあるべし。故に吾人は必しも女丈夫の續々として輩出せんことを希はざるのみか天の經濟として斯る類ひを左な數多く出し玉はざることを信ずるものなり、然れども既に一婦人にして能く男子を慚死せしむるほどの大事業を爲し得たるもの古今に乏しからずとあらば之を集めて世人に示すこと一に以て男子が女性を輕んずるの心を破り二に以て未來の女丈夫たるものをして大に奮起せしむるに足るものあらん女丈夫傳を作るに當りて少さか思ふ所ろを叙し本志を明らかにすと云爾。

カルメンタ一國を起せし事

カルメンタ一にニコストラタと云へる婦人は昔しアルガデアに生れたる歌よみなり其子嘗て偶としたることより人を殺し本國に住ひがたかりしかば夫人は之を伴なひて伊太利に逃れ後に羅馬帝國となれる邊りに一の新國を作りて其子を國王としたり當時土民は殆んど野蠻の樣にて禮儀宗敎を知らざるのみか農耕の業をも辨ぜざりけり然るに夫人は能く之を敎導して万事の師と爲り尙ほ遂に神の殿堂をも造りたり左れば國民惣躰に之を尊崇して夫人を預言者、神僧、女王、とし扱てはカルメンタと云へる號をも捧げたるとなり後年此の邊に開化行はれて人民大に進歩し後に羅馬と云へる一大帝國を建設するに至りたるの日に夫人を尊とみて昔時の恩人とは崇めたり。

アグノダイス男裝して醫師となる事

今を距る二千三百九十三年の昔しアゼンに一女子あり名をアグノダイスと云ふ醫學に精しく且つ有名の博士ヘロフヒラスより產婆術を學び施術人に劣らざりしが元來男のまねして此等の學術を修めたるが故に其后も常に男裝して術を施せり然

るに女の病人ありと云へば必らず行て之を診し且つ其身の亦た女性なることを密かに告げしかバ凡そ女の病めるものハ皆な爭て此人に來れり左れば門前甚ハだ繁くして其名も亦た高く隨て經驗もいよ〳〵富みたれば同業の醫師之をそねみて實もあきぬれ衣を着せたり斯て裁判所に公けの對審あるときアグノダイスの元と女性なると知られて彼の言いかけの罪もとよりあるべきにあらず理非直ちに判かりて之より女が產婆術を學ぶことを公許さるゝに至れりと云ふ。

テレシラ軍に將として敵を退くる事

紀元前五百十四年即ち今を距ること二千四百餘年の昔し希臘のアルゴスと云へる所にテレシラと云へる女子產れたり元來詩人なれども勇氣非常にして嘗てスパルタの王クレヲメンセスが大軍を率いて進入し來るとき自ら卒先して女軍をつくり之に將として馳せ向ひたれば戰うとき死せざれば復た歸らずとの勇あるスパルタの軍勢も大に之に避易して刄を交へず退きたり國民テレシラの軍功を賞して立派ある祝宴を開きまた數多の賞め歌をつくりて今に殘せり。

アーテミシア名將ザーキセスを助けたる事

カリアの女王アーテミシアと云へるは昔し著名なりき婦人中にて尤も名高きものなり紀元前四百八十年ザーキセスが希臘へ對して遠征を爲すとき之を援すけ軍船五艘を出し女王躬から之を指揮して掛引したるが當時サイドニアの軍船を除いては何れも女王の船に及ぶものハあらざりしとなりザーキセスは殊の外女王の勇才に服し戰略なにごとゝなく悉く之に謀りたれば餘の人々は之を妬ましきことに思ひ女王の一身に不幸あれかしと願ひたる程なり左れば何處の戰爭にてもアーテミシア獨り續くものなき邊まで突進して別に激戰したればザーキセス嘗て之を評し今ま女ハ男の如く男子反つて女の如しとは云ひたり斯ればアゼンの人々は殊に女王を惡み若し其首を獲るものあらば賞金一万ドラムを與へんと觸れたれども終に至るまで遂に女王に打勝ちたるものあらざりしと云ふ。

ブラスタ女權國を起さんとしたる事

昔しボヘミアにブラスタと云へる女丈夫ありけり當時の預言者と呼ばれたる女皇リブッサの親友ありしが之を失ひてより獨り社會改良の大事業を思ひ立ち且つ女か男子を臣として之に君臨し惣ての女性が男の上に權を有てる如き一新國を打ち建てんことを祈願しビドープル山に城壁を搆へ之より女軍を四方に派出して近隣を掠めまわり八年の間だボヘミア男子の心

膽を冷やさして軍用金莫大を畜積したり毎度王のルゼミスラヲより和睦の申入あれども常に退けて之を受けず數多の憲法法律をつくりて之を發布し專ら男子は女に劣り女に附屬すべきものなるとを示したり然れども其祈願遂に成らず後ちボヘミア王にビドーブルを攻め取られたる時ブラスタは手に劍を握りて打死したり（未完）

●小說

○薔薇の香

第十回　心外の勸め　　月の舍　しのぶ

白河光、眞とにお久さし振で能く入らして下さいました
青山哲、大層御不沙汰しました
お變はりは御座いませんか
有がたう…あなたは少しお瘦せなすつた樣だ
ハア、イヱ、之は夏瘦せでしてどうも夏に近よりますと段々衰ろへますので…困ります
御用心なさい矢張運動は爲いますか
ツイ〳〵怠けましてどうも自然
イケませんヨあなたなどは特に運動が足らんとイカンです僕等もどうも怠けるですが勉めて試みて見ると直に効能が見へるです…それに又たあなた讀書が過はしませんか
別段そうも見ませんですが此頃は少し小說が好きに爲りましてツイ讀みかけますと面白ひものですから（机の上に置いたるを取つて青山に示し）もう御覽なすつたでせう
ア、ミッドルマーチですか余程面白ひでせうコリヤアあのイリヲットの小說中でも先づ善いうちです最う皆なお讀なすつたか
ハアもう少々殘つて居ります
ドロセアはどうですリドゲートが一躰つまらん男じやありませんか
デスが男の方々は大抵あゝで御座いませうし又た普通の女としてはロサモンドの樣なが善のかも知れません
哲は不審氣ある顏をして息を凝め乍ら
そうじやあないです必竟男子が何ほ女の方々を輕ろんずるからの事で、ソレ初めて會ひましたとき"She does not look at things from the proper feminine angle."（あの方は物の考ようが女らしくないテ）でせう彼の一事で既に佳人を見の目を暗まされたのです到底男尊女卑の弊風を全

く除かんケリヤア眞正の結び合ひは出來んです

そうかも存じませんが又た合性と云ふとがありますから

ア、それはそうです實に朋友として無上の樂しみがある間でも、ダカラと云つてホーム（家族）をつくるとは出來んです既にそのイリチット（ミッドルマーチ其外の小説を作りたる有名の女作者）の如きスペンサアと若年の頃から尤も親友で何事も打ち開け相談した樣子ですが……そう〳〵あの始めて名をかくして小説を作つた時もスペンサアには明かしたと云ふでせう……然し最初から"We shall never marry"（吾等兩人は決して婚姻しますまい）と云覺悟で交へつたとか何やらで見たです、實におゝです、親密ある交際と夫婦の合性とは全く別物です

ト獨り承知して連りに論辨し「之は明白なり」と云へる顏付をして横を向く所をぢつと見やり乍ら

そうで御座いませう

時に白河さんあなたはどうも躰か余程惡いようです運動か足らんからに違ひありません今日どつかへ參りませうジヤアおいか

ハア有がたう御座いますがどうも氣が進みませんで

進まないから倚ほ出なければイカンです一昨日は波……波羅さんと白金邊を廻つて餘程あるきましたがそれで今日は此樣に活潑に在るとが出來るのです、お出なさい

ハイ、おゝそうですか今日も學校で波羅さんにお目に懸りましたに何んとも仰しやいませんでしたが、それは面白う御座いましたらう、俊さんでも居られますと今日御一處に參りますがどうもあなたと二人では……波羅さんとは違ひますから

ハ、あなたは未だ餘程昔し風ですナ吾輩等の交際を以て世の人の習慣を破るより仕方がないぢやありませんか朋友二人同行するに少しも、何んとも、ありますまいあなたは波羅さんとどう違うです

ホ、波羅さんは既にあなたと御約束のある方ですし私は約束……エーゲーヂメントですかコレハあなたまで左樣思ひなさるですかナ實に困るです今朝も濱の妹から手紙が來て學校では專ばらそんな評判があると書いてありましたがイヤどうも例の評判と云ふものは當にならんものです

ソレデハ全く虛言で御座いますのでアノ虛言で……然し私は其事の眞であらんとを祈ります

なぜですか

なぜッテあなた波羅さんは實にあなたを幸はひにすべき適當の方です若し前のような風でありましたら少しはどうとも思ひますが此頃あなたと交際なすつてから彼様にお變りなすつて而して全躰喜バしい氣風の質ですからあなたのメランコリー(氣欝)な所をお慰さめなさるに至極宜しひでせう私もすでに斯うあなたと親しく爲りました上はあなたの一身の半分となるべき人は切めて尤も仲の好い人であれば善いと思つて居りました波羅さんならば多年の朋友で私等にとつても實に幸ひです

どうでせうか

私はまことに左様信じます實にあなたは若し傍らに在つて能く慰さめて上げる人があつたらバ定めし尚ほ一層のお働らきが出來るとであらうにと思つて居りました例へば私の如きはあなたと餘程似た所が多くつてテムペラメント(氣質)が合ひますまい丁度先刻仰しやつた朋友にこそならる丶ものでせう然し波羅さんはあなたを幸福にしてあなたのホームを作るに尤も好い人に違ひありません

サア、どうでせうか

ほんとうに能く考へて左様お極めなさい、あのお榮さんはどういうお説で

妹ですかあれはナニその…

と云へるまゝ默然として首を垂る哲は光の心をかうかあゝかと推し測るうちに目さきにチラチラと現れ來るは一昨日の樂しかりし散歩なりハテ白河の言ふ所は、ト考へる其心は傍見をして一昨日の談の復習を始める、どう云ふ事か知らんと其儘窓より向を見れば社内の景色も亦た一昨日の野景色に似たり

トン／＼＼と上り來る下女はしとやかに手をつかへお孃さ
まお湯をつぎませうか
ハア少しついで下さい
（シユウ、チリン、ゲチ）小聲で旦那さまがお歸りなさいまし
た（バタリ、トン／＼＼＼＼）
ア、山内さんのお歸りですそうな、それでは最うお暇とし
て今度いつか運動に出かけませうあなた餘程壓して爲さ
らんければ困りますよ
ナンデスか
有がたう御座います又たあの事もよくお考へなすつて
そのゥ波羅さんの事を
ハ、さようなら（トン／＼＼＼トン／＼）さようなら俊さん
へ宜しく
二階へも上らず叔父の居間へも行かずボンヤリと立ち乍ら今
がたしめたる障子を復た少し開けんとして手を懸くるとき
お孃さま旦那さまが召します
門内に敷つめたる小石を踏む時は足擡大層に活潑なるように
見へたり門を出て丶右に曲る行くと半町首は垂れステッキは
息み足もとに下りて居つたる血は追々に頭腦に集會す
ハテナ何う爲ようか……え丶矢張そうか
歩行急に早くなり身躰生き復つて動く
チイ車屋根岸御行の松の向までいくらだ

●寄書

○ふみのかきかた　大坂一致女學校　大槻景足

人としてものかゝんとするに我こゝろのあらはれざるものやはあるさればをみなはふみかくもをのこなどのとくからめきたる言の葉など選ふは聞ぐるしきことゝ今更あげつらふ迄もなく唯わが思ふまゝをおとなしやかに書つらぬるをこそをみなの文とはいふべけれおのれ此の頃の女子のふみども見るに秋のむしのさせるふしなく難波江の蘆間の舟のさはり多くして言の葉のいやしげなる心の拙きをあらはすのみならずのち／＼に至り學問せしかひもなきなど世にそしられせらるゝものあらんとおぼゆ然るを何くれ竹の世のひとに文のこゝろさへわかちぬれば芳野川のよしとなどいひ流さんは女子の道をしらざる人にこそあるらめさて熟まづ文かゝんと思はゞ水莖うるはしう雪の中に梅のにほひあるがごとく言葉すなをに柳に風のふくごとくみやまにほとゝぎすの聲なつかしくなけるごとく秋の夜の月かげの草葉の白露に光るがごとく冬の枯野にときわ木の色をかへざるがごとくみづくきあさやかにいとうるはしく言葉たゞしく心に心をつけてのせまほしきことになん

大坂の一致女學校にもの學ぶ女子のだいつくられたるふみを見て　三河國　大塚碧子

染出す赤きこゝろの紅葉しの色うるはしや露の玉章

○倫敦タイムス新聞日本女服改良論（接前號）　日本がぜツト社　高根虎松

以上の通信に就きタイムス記者は其紙上に於て左の如き評を下せり
東京在留本紙通信者は前號に掲載せし書狀中に日本衣服改良論の爲めに辯護の勞を執られたり日本皇帝の内裏にては今般宮女侍婢に至るまで皆洋服を採用せられしとの事は嗜好を有する社會の擧を痛歎する所なり抑も日本の服を見るに昔時帝職に流行せしもの丶如く唯想像に富むのみに止まらず要用の點より論するも幾多の長所を有せり其淡彩にして身躰を安逸にし健康を保護するは大に他の服制に優

る處なりと雖とも粲然として人目を眩するが如き美麗の點に至りては其の欠く所なり故に彫刻家若くは講家の賞讃を博することは如何と思はるれども日本の婦女に適し居ることは亦疑を容れざる所なり余輩惟ふに今日の日本婦人には今日の日本服ほど其職業動作に恰當する者は之なかるべし日本婦人の他國の服を着するを見るに見苦くして氣の毒に思はるゝなり通信者も云はれし如く日本の婦人も外國の女子と均しく澤山衣服を所藏するを樂とするに相違なし故に其流行の劇烈なる爲め莫大の金錢を投じて新調したる衣服を一朝無用の廢物に歸せしむる如き危險に接するは彼等の好まざる所なり然れども若し日本の宮廷より起りし女服改良の運動一般に布及するに至らば從來日本婦人が衣服に費したる富は皆な無に屬せりと云はざるを得ず假令へ英皇エレサベス程に衣服を所持せらるゝ貴女と雖とも殆んと始めて家事に手を着けたる新婦の如き位置に陷いるを免れざるべし加之日本婦人か一旦進んで洋裝を採用せば坐作進退遊戯等の細に到るまで皆一大改革を加へて洋裝に適せしめざる可らず斯くして中下社會の婦人も競て上流の所爲に摸倣し遂には全國擧て洋服を纏ひ唯異同不均合の現像を呈することならん又洋服は西洋風に飾付たる室内に在つてのみ躰裁よきものなれば服裝の改良と家屋の改良は并行して相離る可らざるものとす惟ふに土耳其波斯の如きは已に其固有の服制を變すると同時に家屋の建築室内の裝飾皆悉く一變して亦前日の迹を留めず日本も今や從來の美麗爛雅にして人目を樂ましむる室内の裝飾法を捨てゝ雅致なき器械的の裝飾法を採用するの運に向ひしも亦是非なき事どもなり

通信者の云ふ所に依れば伊藤伯爵こそ女服改良の運動を起して嗜好者流の反對者たる位置を占められたる本尊なりと左れはこそ吾人が兼てより日本國皇后陛下が御召の衣服幷に帽子とも獨乙の都伯林に注文せられて流行の創造所と云はるゝ巴里或は倫敦に注文せられざりしは不思議なる事かなと訝るの外無かりしが通信者の說を得て漸く分明したり蓋し此改革は政治家の法なり政略なり婦人自ら好んで起したる運動には非るなり伊藤伯如何に世界を包括する知識を具へ給ふとも已に一個の日本人なるからは其國風の長所良點はよも忘却は致されまじ左れは伯を以て自國の一種特有の美麗なる服裝よりも西洋風の器械的の美を競いし服裝を以て大に勝れりとせられたる者とは云い難からん伯の意は唯衣服の流行を利用して自己の方寸に存する目的を達せんとせらるゝ者の如く然り通信者が最後に置かれたる理由こそ却て伯の胸中には首位を占めしことならん伯は日本が西洋諸國と同等比肩の位置に立たんことを望めり伯は東西の區別を除去らんことを望めり想ふに衣服は人を區別する最も見易き表識なり伯は日本人は卑下なりと云ふ外部の看板を除去らんとするに在りて心中洋服を好むには非ず伯の眼中固より伯林巴里倫敦の服裝など云へる區別は存せざるなり其間の優劣勝敗の如きは固より伯の意を煩すに足らず伯は唯歐風を一物視して日本の婦人に之を採用し西人に告くるに日本は斯の如く女子の服裝までも進んで公等に倣い以て公等と同等の地位を得んことを熱望し居る旨を以てせんことを望めり以上は此服制改良論の起りし外形上の原因なりと雖とも伯の意中を察するに外形上に余程重を置かるゝ者の如し伯の內部の目的に至りては漠然として測り知る能はざるが如しと雖とも先つ通信者の說其旨要を得たるに似たり伯以爲らく日本服は日本の舊思想と其出所を共にせり故に之を保存するは文明進歩の精神に戻る且つ女服のみを今日の儘に存するは善にあれ惡にあれ日本の男子社會に流行する改革の大勢外に婦人を拋棄するに均し日本服は淡泊整齊の點に於て大に勝る所ありと雖とも素と婦人を玩弄物視し無用視したる舊世界の遺物の如く思はれ最と忌まはしく見ゆるものから伯は婦人に之を脫して新世界の服裝を執らんことを望めり要するに伯は日本の婦人をして前日の如く何事を爲すにも左顧右眄逡巡躊躇する風を脫し活潑突進の氣象を養成せん爲めには入費を顧みず日本固有特種の服制を脫し去りて毫も顧慮せざる勇氣を有せらるゝものゝ如し

以上の理由を仔細に觀察し來れば誰しも日本女服改良洋服採用論の一理あることを承諾せぬ者とては之なかるべしと雖とも又た苟も少しく美術の嗜好あらん人ならば舊來の衣服は改良を要すべけれども其長所だけは之を保存したしと云はぬ者はなかるべし日本服と雖とも强ち西洋流の生活方に適する樣に改良する能はずとは云はれまじ英國に在て日本の風俗を愛し其地を拂て跡を收めんとするを歎する人々は伊藤伯が自國の長所を存して洋裝の短所を除きたる一種善良なる服制を案出することに盡力せられざりしやを憾む人あり然れども伯が論者の云ふが如き勞を執らざりしも亦全く故なきには非ず從來の經驗に徵するに新舊の服制を同時に成立せしむるの難きは猶二夫婦を一家に生活せしめて其和合せんことを望むの難きに異ならず西洋の所謂優美なり閑雅なりと云ふ底のものは衞生、快樂、美麗の諸點より論すれば非難すべきもの固より尠からずと雖とも洋服採用說の熱度の劇烈なる其追出さんとする舊服の長所を取りて己れの短所を補ふは卑劣なりとして爲すを屑とせざりしものならん往時英國に衣服改良の盛なりしとき舊來ウエルス地方及びブラックフオレスターの婦人服の長所を取りて新流行の服を補はざりしも以て一例とするに足れり吾人の望む處は西洋人が自國の服裝が日本の舊服を絕滅せざるに先ちて其長所を取りて自己の欠點を補はんこと是なり日本か洋服を一般に採用するに至るは入費其他の事情より遲々たらざるを得ざるべし今や我西洋の服裝の弊害を改良せんとする熱心家の爲めには一個の好時代生出せりと云べし衞生家生理家の如きは宜しく蹶起して此時運を利用するに力むべし若し然せは彼等は一擧して兩得し所謂る一個の石を以て二個の雀を一時に獲べし一方には日本服の長所を取りて歐洲流の服裝を改良し一方には日本舊服の長所を保存して美麗家嗜好家の意を喜ばしむるを得べし

● 新報

○看病婦試驗の及第者　東京慈惠醫院にて看病婦生徒を募集されし事は前號に於

て報導せしが去る十二日入學試驗を擧行せられ志願者九名の內二名は病氣一名は他の事故に依て欠席し即ち六名の試驗ありし處四名の合格者あり其人々は東京中島千子(二十二)三重縣山田逸子(二十二)愛媛縣兒玉小春(二十四)岐阜縣水野鉛子(二十八)の　子にして試驗課目は解剖書物理書及び新聞論說の素讀解釋、海外新報飜譯の書取、算術(四則應用)、作文(普通用文章)應接(之は受驗者の一言一行に注目し)婦德の如何を試みる者にして品行の良否は尤も同院の注目[illegible]る處なりと)の諸課なりしと尙來る十一月は更に募集さるゝやに聞及びたれば有志の諸姉は同院へ照會あらは詳ならん貸費金額は前號に每月一圓とありしは全く植字の誤にて月々七圓を貸與せらるゝなれは爰に其誤を正す

○婦人教育談話會　同會は去る十八年中麴町區飯田町の四の宮倫子の設立に係り以來追々賛成者ありて目下會員百名の多きに達したれば今度更に皇族某宮殿下の御息所を會長に、三條公、辻文部次官の兩夫人を副會長に其他幹事五名を撰擧し去る十八日公の富士見小學校に於て教育上の演說談話會を開きたり

○大坂の女學校　大坂にては中の島の府立高等女學校及び府會議員大三輪長兵衛氏の設立に係る阿波堀五丁目の私立大坂女學校、其他基督教信徒の設立せし照暗女學校、維美那女學校、梅花女學校、大坂一致女學校等の數校ありて女子教育は隨分盛んなる樣に見受くるも完全なる學校と云へば府立高等女學校、私立大坂女學校の二校あるのみなれども今度西區の府會議員が他區に率先し女子普通教育に適當なる私立女學校を設立んせとの計畫中にて右は府會區會兩議員十餘名が創立發起人となり舊戶長町會議員の中より有志を募り創立費は發起人より夫々豫出する筈なりと云ふ

○神戶婦人英學會　神戶港山手通五丁目の同學會は今度都合により從前よりの教員を變更し一層教育の程度を高女女教師のみにてはまだ完全ならさる處あるより最上級生徒の講讀は神戶英學會の古莊三郞氏に教授を依囑し發音法は神學校のデビス氏が其教授を擔任すると云ふ

○梅花女學校　大坂土佐堀裏町なる同校は先頃中新築工事中なりしが愈々落成を告げしにより此程開校式を執行せしが在來の生徒は二百五十名新入生百余名もある程なれば自然校舍の狹隘を告ぐる事にて近々又々分校を設立せさるべからざるに至りたりと

○淸揚女學校　前號に記載せし上州前橋の女校は去る十二日其開校式を執行せり本日午後一時三十分來會の淑女紳士及び生徒一同設けの席に就くや小野島行貞氏設立の主旨を演述し發起者總代常村右左雄氏の祝文朗讀あり次いで高崎婦人教育會總代深井仁子の祝文、師範學校教頭瀧澤氏の演說、女學校教師川本氏烈女傳の講義、及び縣屬若神學務課員の演述等あり式終りて后ち茶菓、赤飯麥酒等の饗應あり一同退散したりと同日來會の人士は無慮百八十余名にて中々の盛況なりしと

○橫濱婦人交際會　今度橫濱住吉町三丁目耶穌教學校の女教師が發起となり題名の如き會を設けたりと云ふ

○婦人會　高知縣師範學校助教諭加藤よね子外數名の發企にて一の婦人會を設け此程其第一會を開きしが會員凡そ三十餘名ありしと云ふ

○宇治通信　當地は有名なる茶の產地なれハ男女となく一般に製茶に從事し他に何等の產業もあるとなし故に五月上旬より此頃おくは茶摘と茶撰とにて婦女の產業は相應にあれとも其前後に在りては全く無產に過くるものなりされは此永き事ハ如何にして過くるかと云ふに其十五六歲前後の者ハ多くは裁縫場に入りて裁縫を傳習するも其以上の者に在てハ先つ徒らに消費するものなし誠に惜むべき事と云ふべしされハ當地の有志者に於ても此に注意するものなきにしもあらすと雖とも何分製茶と相抵觸せさるを要することなれハ未た適當の考案も見出さゝるか如し世の識者若し適當の產業を案出し之を指示せらるれハ幸甚

當地教育上の景況を通信せんに當地にハ現に小學校の設立あるも父兄たる者ハ皆女に學問ハ無要なりとの思想を有するか故に未た尋常科を終ふるに至らすして早く既に之を退學せしめ偶々高等科にも進入せんとするものあれハ他より之を見非して遂に退學せしむるの傾向あり小學校に附屬して一の裁縫場を設け和服の裁縫を教授す此は可なり盛なり然れとも其組織は頗る漠然たり是の舍に在ては止むを得さる事なるべし此外淫猥なる遊藝の稽古所あるに過きすして一も婦女の教育上に關する者あるとなし前言の如く當地は製茶の產地なるか故に製茶期に當らは大和河內丹波及ひ近國の男女夥しく入込み來るか自ら猥褻の風を傳染し婦女は槪して不品行不道德の者多しとす當地小學校の生徒中往々束髮を爲す者あるを見受くるも當地などの束髮は形ちこそ束髮なれベタゝゝに油を附けたる者にして且つ髮結に結はしむる事なれは舊來の髮に比して敢て甲乙なきが如し否其形の優美なる所ハ却て舊來のデコゝ髷に一歩を讓るか如し(上林敬次郞報)

○前橋婦人協會　同會ハ去る三日午後二時より同地柳町臨江閣にて開きしが先づ第一に牧師不破唯二郞氏開會の旨趣を述へ夫よりミスプラレス姉妹の履歷をば簡單に演說し夫よりミスプリンス、女史ハ一家經濟、ミス、メリー、プリンス女史ハ慈惠論と云ふを英語にて演說し之を柳谷三郞邦語に譯して通辯せり此日來集せし者ハ佐縣知事の北發、渡邊書記官、竹下警部長、飯塚收稅長等の各夫人、千谷中岡兩判事の令孃及び眞野農商課長、槇田衛生課長其他學校教員生徒新聞記者等無慮二百三十余名にて爲めに後れ走せに成なりしものハ入塲するを得ざりし程の盛會なりし

○藤岡婦人會　群馬縣下藤岡町なる高山養蠶傳習所に於て去る九日午前十時より開きし同會ハ先づ東京櫻井女學校生徒茂木婦妹が毛糸編物の傳習あり夫より同地教員林きよ子の唱歌教授、茂木けん子の西洋婦人の話、育兒上の談話、高山社員磯尾佐十郞氏の北海道の談話、永井元氏の少壯者光陰を徒過すべからざる事殊に就ての談話等あり午後四時閉會せしが來會者ハ三十余名なりしと

●當時女學の新報甚だ多く悉く此を揭載する能はず愛讀の諸氏より景況報知あるも餘白無きを以て屢々揭載を延引する恐なきに非ず請ふこれを諒されん事を

特別廣告

東京婦人矯風會々員姓名宿所表（第七回）
地方の部（前號に續く）

大津村	特	壹岐幸存
製鐵所	同	仁木康眞
栃木縣宇都宮大町二十番地		礒嶋せつ
同四條町		太田琴
函館港元町五十三番地遺愛女學校		雜賀あさ
茨城縣水戸上市櫻町七番地		渡瀬かめ
高知縣廿代筋四番地		岡山とゑ
同		小原くす

○會員の轉宿又は番地姓名の相違若くは全く姓名遺漏の方も有之候はゝ日本橋釘店八番地佐々城豐壽方へ御通報被下度候次回には改正致可申候也

●東京婦人矯風會錄事

明治十九年十一月九日虎門教會に於て集會を開き本會設立の可否を討議し廿二名の婦人發起者と成りて本會設立に可決す當日發起者中より七名の規則編輯委員を擧ぐ同十二月六日日本橋教會堂に於て矯風會發會式を開き會頭、議員を選定す

明治二十年一月十一日駿坂會堂に於て矯風會定期會を開く
同二月八日麴町教會に於て定期會を開く
同三月五日厚生館に於て大演說會を開く
同四月二日數寄屋橋教會に於て定期會を開く
同五月十三日厚生館に於て大演說會を開く
同五月十四日牛込拂方會堂に於て定期會を開く
同六月四日兩國教會に於て定期會を開く此日半年記錄の報告あり
七月二日牛込會堂に於て定期會を開く
七月十七日北海道函館に於て函館婦人矯風會の設立を報じ來ることれを本會の部會とす
七月二十日米國婦人禁酒會々長「フランシス、ウイルラルド」孃より寫眞送り來る

廣告

●明治女學校生徒募集幷びに
新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜して校舍を新築し去る十二日を以て落成せりよつて新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る精細の規則は附て承知あるべし○入學志願者及び規則問合せの方は飯田町二丁目五十番地木村ふぢ方明治女學校假事務所へ來駕あるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町女學雜誌社宛てにこ郵劵二錢送らるれば直ちに送附すべし

東京麴町區飯田町
三丁目三十二番地

明治女學校

○鈴木弘恭大人著述○小中村淸矩大人評

改正
增補 **文法口授** 全一册●一名和文獨案內 定價十八錢 郵稅四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書あかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の教科書とありたり

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

つれ〴〵草講義 定價十二錢 郵稅四錢 第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密ある一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴孃諸子請ふ續々購讀あらん事を

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

○東京經濟雜誌 三百八十五號 九月十七日發 定價八錢

東京々橋區彌左衛門町七番地 經濟雜誌社

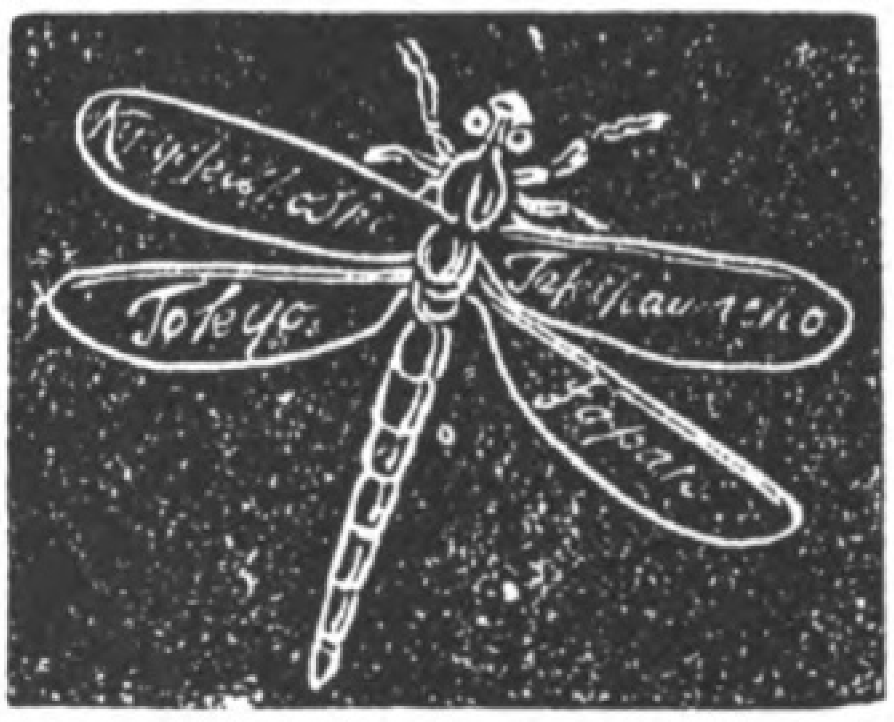
矢嶋錦藏譯述

斯氏女徳新說

極美洋裝 全一冊 定價金九十錢

右ハ英國ノ最モ新版ニシテ最モ有名ナル女徳論ナリ開卷第一ニ女子ノ本分ヲ說キ次ニ男女ノ關係交際ノ方法敎育ノ順序等ニ付目下ノ弊ヲ擧ケ將來ノ事ヲ誡メ證ヲ古典ニ徵シ例ヲ史乘ニ採リ理ヲ公道ニ質シ敎ヲ人情ニ求メ都テ婦道ニ關スルヿ逐一痛論セザルハナシ實ニ女子必讀ノ寶典ト云フベシ從來本邦ノ女子ハ大ニ品行ヲ重ゼシ故苟モ文字ヲ解スル以上ノ者ハ必ス姫鑑女誡女大學等ノ書一二部ヲ藏シ女範ヲ之ニ取ラサルモノナカリキ然ルニ近來歐米ノ諸學輸入セシヨリ漸ク舊ヲ棄テ新ニ就クノ風ヲナシ右等ノ書モ概陳腐ナリトシテ排付セラレタリ而シテ未タ世ニ之ニ換フベキ新良書アルヲ聞カズ諺曰人住マザレハ狐狸ノ住所トナルト實ニ女子ノ心中今將ニ狐狸ノ住所トナラントス鳴呼世ノ父兄ヨ眞ニ其女ヲ愛セラルレハ此書ヲ購讀セシメヨ貴女令孃ヨ眞ニ其位置ノ高カランコトヲ欲セバ此書ヲ購讀シ其徳ヲ修メヨ又世ノ男女同權ヲ主張シ或ハ之ヲ非トスル諸君ヨ此書ヲ購讀シテ互ニ其中正ヲ取リ世ヲ益シ己ヲ益シ玉ヘ

賣捌書肆 東京丸善商社○中西屋邦太○博聞社 大坂三木佐助○柳原喜兵衛○仙臺鷲藤書店



發賣元 共益商社書店

東京々橋區竹川町十三番地

發兌

九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月。五日 十二日 十九日 廿六日
十二月。三日 十日 十七日 廿四日 三十一日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢、府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を藉する塲に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 前金拾錢（廿七字詰）
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町闕々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町員明堂○同京橋區木挽町二丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○東京本鄕四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY